

・・・今日も快晴!・・・
トラックドライバー
日誌 新連載

「私、今日からトラックドライバーになります!」の続編として、今月から新連載がスタート。「安全・安心」のために知っておきたい取り組みを、サンライズ運送に勤めるドライバーたちのエピソードを通じて紹介していきます!

第1話
3S(整理・整頓・清掃)は仕事のだんどり



速水 涼 (31)
 運転技術が高く、みんなの模範となるプロドライバー。社内ではいつもクールだが、熱いハートを持って仕事と向き合う。また実家がフラワーショップであることから、花にも造詣が深く、自らが運転するトラックに花の名前を付けるほど。最近ではオンラインゲームにはまっており、休日になると世界中のプレイヤーとゲームの腕を競っている。



次で「整理整頓の理由」を解説!



3 車両室内の「整理・整頓・清掃」で死角を消す!

運転前の整理・整頓や清掃は、死角をなくしたり、異常を事前に発見できたりと、安全運行に欠かせない要素です。

マンガ制作: ad-manga.com

2 仕事に必要なものは「固定する」

ダッシュボードや助手席に無造作に「置く」のではなく、決めた場所に「固定する」「入れる」を優先しましょう。

例えば、運転中、大切な「伝票」が足元に落ちると、踏みつけて靴跡が付くことを懸念し拾おうとする→「脇見運転」に!



1 「脇見を誘発」するものは近くに置かない!

雑誌や新聞、マンガなどが目の届く範囲にあると、運転中でもついつい気になり、「チラ見」をして事故につながってしまう恐れも。また、それらをダッシュボードに置くと、フロントガラスに反射して視界を悪化させます。



プロドライバー
速水の鉄則

3S (整理・整頓・清掃)は、安全運行の道に通じる

プロの仕事道具であるトラックを見れば、ドライバーの適性が見えてくる。

トラックを磨く人は、
「交通事故に遭いにくい」人

職業ドライバーにとって、トラックは多くの時間を共にする愛車であり「自分の命を預ける相棒」です。

トラックの故障を未然に防止するため、異常を探す始業前点検は、さながら「トラック」に「あいさつ」をして話しかける「時間」です。トラックの機嫌を伺いながら当日の予定を伝えつつ、点検・整備をして運行の無事を約束しましょう。1人1車制の場合はトラックに愛称を付けると、トラックとの「会話」が弾みやすくなるでしょう。1人1車制ではない場合は、乗務後に洗車(使った人が担当)をして、翌日の乗務前に点検(使う人が担当)をすることで、車両の洗車点検を「ふたりで両立」できるはず。ちなみにトラックの洗車を含む美化とは、トラックをねぎらいながら背中を流すような時間と想ってください。

また、トラックの「点検」は法令でも定められていますが、「洗車」は法令の対象外です。積極的に点検をする人は、トラックを大切に使用する人であり、トラックを「洗う」のではなく「磨く」ように、頻繁にトラックを手入れしています。逆に洗車をしない人は点検を怠る人も多いことから、事故を起こすリスクが高い人といえるでしょう。

トラックをしっかり点検する人は、
「自分を守る」人

ドライバーが行う点検は、「法律を守る」ためだけでなく、「自分を守る」ために行うものでもあります。また、正常に進むだけではなく、「思ったように停まる」ために行うものです。特にタイヤは、「溝の深さ」を気にした「しっかり停まるための点検」を実施しましょう。また、タイヤは風船と同じく空気を入れることで膨らんでおり、いつのまにか空気が抜けるのも特徴です。空気が減っても自動で適量に回復するタイヤの登場は、もう少し先のようです。「思うように停まる」ためには、「空気の点検」も欠かせません。

足元を美化する人は、
「相手を思いやれる」人

ちなみに、始業前のタイヤの点検は法令の対象ですが、「洗車」と同様、タイヤを「キレイに保つ」ことは対象外です。「靴を磨いたときは、汚したくない」という心理から雨天時に歩くときは「足元が悪い場所」を避けるでしょう。それと同様に「タイヤ」をキレイにしたときは、汚したくない心理から走行時に水たまりを避けたり、徐行したりするのでスリップによる事故の防止や、泥土・汚水などを飛散させて歩行者に迷惑をかける交通違反が防止できます。

トラック室内の整理・整頓・清掃や車両の美化は、安全運行の道に通じます。「道具にこだわり、道具を大切に使う」これがプロの仕事なのです。

高柳 勝二 (たかやなぎ かつじ)

株式会社プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。